

16. 甲状腺癌と誤った ^{75}Se -selenomethionine 集積陽性を呈した頸部腫瘍の 1 例

森崎 緑朗
(鳥取県立厚生病院・放)
荻野 隆一
(鳥取大・放)

原発性肝細胞癌では ^{75}Se -selenomethionine が集積することが良く知られているが、他の 2, 3 の悪性腫瘍においても集積がみられることが報告されている。われわれは甲状腺癌を疑って検索中に、頸部腫瘍に一致して ^{75}Se -selenomethionine が集積陽性を呈した悪性リンパ腫の 1 例を報告した。

17. 腹部 ^{67}Ga シンチグラフィにて特異なパターンを示した結核性腹膜炎の 1 例

宮庄 英明 三島 康弘
(広島大・2内)
佐々木正博 加藤 良隆
山下 征紀 勝田 静知
(同・放)

ガリウムスキャンは悪性腫瘍の描画だけでなく、最近是不明熱の患者や炎症性病変の局在部位、広がりなどの診断に応用されるようになった。最近われわれは悪性リンパ腫が疑われた患者に、全身ガリウムスキャンを行なったところ、その腹部シンチグラムにおいて特異なパターンがみられ、結核性腹膜炎の補助診断のうえに、本法が有用であったと思われる 1 例を経験したので報告する。症例は 20 歳の男性で発熱を主訴として入院。入院後腹部 ^{67}Ga シンチで肝臓より腹部への集積が強く、腸管排泄像のごとくみえたが、排便後翌日も同様の像が得られ、結核性腹膜炎、広汎な炎症が強く示唆された。2 日後腹腔鏡検査施行し、結核性腹膜炎の確診を得た。今回の症例のごとく、ガリウムスキャンによる異常像検出により、早期に治療方針上の注意を喚起し、治療効果判定などの病像把握に有効であったことは、ガリウムの病態経過観察への応用の価値を示すものである。

18. 肺動脈左房交通症の 1 症例

—シンチグラフィを中心にして—

玉井 豊理 川瀬 悦郎
平木 祥夫 水川帰一郎
田辺 正忠 山本 道夫
(岡大・放)
関 洲二 寺本 滋
(同・2外)

1950 年 Friedlich らによって初めて記載されたきわめてまれな先天性チアノーゼ性心疾患の 1 つである肺動脈左房交通症にシンチグラフィ (RI cardioangiography) を行なった。左心がきわめて早期に造影され、右心および左心の稀釈曲線で、左心の稀釈曲線の peak は低く、両者の peak to peak time は約 1.2 秒ときわめて短縮していた。肺の造影も不十分であった。右心および肺の稀釈曲線で、肺の曲線の peak も低く、両者の peak to peak time は約 3 秒であり、左心の peak が肺の peak よりも早期に出現した。

19. $^{81\text{m}}\text{Kr}$ 製造の試み

廣川 裕 小山 矩
小山 豪
(広島大・放)

$^{81\text{m}}\text{Kr}$ は肺機能検査その他に利用される新しい核種として注目され一部実用化されている。われわれは、大阪大学核物理センターの AVF サイクロトロン 65 MeV 陽子線を使って、 ^{85}Rb (p, 5n) $^{81}\text{Sr} \xrightarrow{\text{EC}, \beta^+} ^{81}\text{Rb}$ により ^{81}Rb を製造し、 $^{81\text{m}}\text{Kr}$ generator により $^{81\text{m}}\text{Kr}$ を得た。化学分離の方法、放射性不純物の有無、generator の効率、 ^{81}Rb の収量などを調べ基礎的検討を行なった。 ^{81}Rb の収量は化学分離なしで、 $9 \text{ mCi}/\mu\text{A}\cdot\text{hr}\cdot\text{g}/\text{cm}^2$ 、化学分離を行なえば、 $0.9 \text{ mCi}/\mu\text{A}\cdot\text{hr}\cdot\text{g}/\text{cm}^2$ であった。また 60% 以上の generator 効率が得られた。今後さらに generator を改善するとともに、肺 dynamic phantom を用いて基礎的データを集積し、 $^{81\text{m}}\text{Kr}$ 特異性をいかした、新しい肺機能検査